

PRESS RELEASE

《終末期VR体験ワークショップ》を開始のお知らせ

—— 患者視点のVRと対話で学ぶ、新しい研修プログラム ——

佛心寺 東京布教所（東京都豊島区）は、終末期を患者本人の視点で体験できるVRプログラムを用いた《終末期体験ワークショップ》を開始いたしました。

本プログラムは、横浜国立大学 客員教授 河野克典、四天王寺大学 准教授 前原なおみと協働で制作され、株式会社日本コミュニケーションアカデミー 並びに 四天王寺大学 前原研究室の協力を得て実施しています。

2025年9月にはエンドオブライフケア学会 交流集会にて事例発表を行い、医療・介護・葬祭・教育関係者から高い関心と評価をいただきました。現場のケアに直結する「患者視点での理解と対話」を促す本プログラムは、研究成果を社会に還元する新しい試みです。



VRワークショップの特長

01 患者視点の終末期体験

人生最期の声も出せない、身動きができない時間をVRで疑似体験。また、家族にとって「もう届かない」と思いがちな最期の時間を患者本人の目線に立つことで、一歩進んだ関わりについて考えます。

02 内省と対話

体験後は少人数で感情を分かち合い、内省を促します。自分の内面を丁寧に振り返り、語り合うことで学びが深まり、自分の新たな気づきにもつながっていきます。

03 ケア現場への応用

医療・介護・葬儀社をはじめ幅広く応用可能。研修や教育だけでなく、日々のケアの現場で、自らの心を整え直す実践の機会となり、内面から寄り添う姿勢を支えます。

ワークショップについて

最期の時間に多くの人が抱く、

- 「声は届いているのか」
- 「面会に意味はあるのか」
- 「そばに行くのが怖い」

といった迷いに、VRを通して向き合います。体験後には少人数での対話を行い、寄り添いの本質を再確認し、ケアの在り方を見直すきっかけとなります。



参加者の声

- 「自宅に戻って父親と終末期について話してみようと思えた」(看護師)
- 「実際体験できない目線で見られて、いろんな感情が湧いた」(看護学生)
- 「亡くなられる前を体験でき、葬儀社の研修で導入したい」(葬儀社社員)
- 「中学生や高校生に向けた“いのちの授業”として良い」(大学教授)



開催概要

- 開催場所：佛心寺 東京布教所（目白浄清楽）
- 開催頻度：月1回（曜日は固定せず、都度ランダムに設定）
- 定員：少人数制（4名程度）
- 対象：医療・介護従事者、葬儀社、教育関係者、地域の方など幅広く参加可能
- 申込方法：Peatixより事前申込



Peatix申込フォーム



VR映像

お問い合わせ先



佛心寺

担当：新田 崇信

171-0032 豊島区雑司ヶ谷3-7-1-1F

電話：03-5985-6011

メールアドレス：nitta@comac.jp